

[特集]

May
2026 Vol.54 No.5

5

Q&Aで学ぶ 微生物検査の疑問

- ・喀痰培養の3連続採取は意味があるのでしょうか？ また、検体をリジェクトする基準はありますか？
- ・基本的に検体は冷蔵保管だと思えますが、絶対に室温に置いておかなければならない検体や菌種を教えてください。
- ・標本をスライドに塗布する際のコツはありますか？ また、剥がれてしまうことがありますか？ 何か対策はありますか？
- ・グラム染色する際のポイントを教えてください。また、夜間などに行う際の教育はどのようにすればよいですか？
- ・培養温度の影響がある菌種はありますか？ また、ふ卵器を常時何台もち、温度はどのようにしておけばよいですか？
- ・材料ごとに、選択する培地の種類と選択基準(血液寒天培地、MacConkey 培地など)を教えてください。
- ・ディスク拡散法と微量液体希釈法の違いを教えてください。
- ・薬剤感受性検査の実施基準に悩んでいます。基準などがありますか？ また、薬剤感受性検査の再検査基準を教えてください。
- ・臨床医への報告のタイミングと、適切なコメントの付け方を教えてください。

他

●宮城ちひろ(那覇市立病院)、小林昌弘(国立病院機構東京医療センター)、静野健一(千葉市立海浜病院)、原 祐樹(日赤愛知医療センター名古屋第二病院)、鷺尾洋平(日本医大病院)、永田邦昭(くまもと県北病院)、藤原美樹(ツカザキ病院)、伏脇猛司(大阪府結核予防会大阪病院)、西尾美津留(小牧市民病院)、吉田勝一(前橋赤十字病院)、河村佳江(金沢医大病院)、櫻山誠也(広島大病院)、小林沙織(神戸大病院)、口広智一(公立那賀病院)、米谷正太(杏林大)、志村敏史(大手前病院)、藤田拓司(京都保健衛生専門学校)、清祐麻紀子(九大病院)

項目や執筆者は予告なく変更となる場合があります。

(月刊) Medical Technology

Vol. 54 No. 4 (4月号) 2026年4月15日発行

定価 1,980 円 (本体 1,800 円 + 税 10%)

編集発行人 白石 泰夫

発行所 医歯薬出版株式会社

〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10

電話 編集 (03) 5395-7621 販売 (03) 5395-7616

郵便振替口座 00190-5-13816

印刷所・三報社印刷株式会社 製本所・榎本製本株式会社

【本誌の購読について】

●定期購読のおすすめ

- ・最寄りの書店に「定期購読」をお申し込みください。
欠号のおそれがなく、確実に求めいただけます。
- ・便利な前金一括払いでの年間購読もおすすめします。
前金一括払いの購入の場合は下記の方法でお申し込みください。
- (1) 小社特約店(書店)へお申し込みください。
特約店一覧 <https://www.ishiyaku.co.jp/tokuyaku.aspx>
- (2) 富士山マガジサービス (<https://www.fujisan.co.jp>) へお申し込みください。
希望する雑誌名で検索してください。

弊誌 E-mail アドレス: mt@ishiyaku.co.jp弊誌ホームページ・アドレス: www.ishiyaku.co.jp/magazines/mt.html

■編集委員

伊藤 仁	元 新渡戸文化短期大学
下澤達雄	国際医療福祉大学
高梨 昇	東海大学医学部付属病院
高橋克典	群馬バース大学
長谷川浩子	千葉大学医学部附属病院
廣井禎之	順天堂大学
松本哲哉	国際医療福祉大学
三井田 孝	順天堂大学
宮地勇人	新渡戸文化短期大学

■編集協力スタッフ

浅野尚美	岡山大学病院
太田 惣	北海道社会事業協会余市病院
塩竈和也	藤田医科大学
高橋 修	東京都リハビリテーション病院
中村竜也	京都橋大学
野木岐実子	帝京大学医学部附属病院
三村邦裕	東京医療保健大学
三好雅士	徳島大学病院
横山俊朗	熊本保健科学大学
渡邊亮司	済生会今治病院

編集後記

◆ 人通りの多い街中で、向かいから歩いてきた人とお互いに立ち止まって動きを読み合う一瞬の間。先日、鳩とも同じような状況が発生しました。正面から来た一羽と同時に歩みを止め、こちらが少し迂回するようにして進むと、あちらもトコトコと真っ直ぐ歩き出しました。何か交流が成り立った気がして嬉しくなり、その鳩の道中安全を案じてしまうのでした。

◆ 泳ぐ魚を真上から眺めることにはまっています。池の鯉はもちろん、商店街の生け簀のアジやイシダイも、横から見るとより頭部の丸みや無防備さが感じられてつい見入ってしまいます。(湯本)

◆ 映画「国宝」に触発され、浅草へ歌舞伎を観に行ってきた。高校生の時の「日本の文化にふれる取り組み」以来の鑑賞でしたが、当時はどこか「観させられている」という気持ちで舞台を眺めていたように思います(今思えば何とももったいないことをしました……)。今回はブームに便乗してではありませんが、「観たい」という気持ちがあったことに加え、音声ガイドの助けもあり、とても楽しい時間となりました。花道があることによる役者さんとの距離の近さは、歌舞伎ならではの魅力だと思います。頭の片隅に追いやられていた“文化を愛でる心”を、久しぶりに思い出したひとときとなりました。(川岸)

本誌の複製権・翻訳権・翻案権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)・口述権は、医歯薬出版が保有します。本誌を無断で複製する行為(コピー、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」などの著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。また私的使用に該当する場合であっても、請負業者等の第三者に依頼し上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)
本誌をコピーやスキャン等により複製される場合は、そのつと事前に出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。